

「Hear Our Voice 9 ～子ども参加に関する意識調査 2014～」結果(速報)

(2014年11月20日現在)

国際子ども支援 NGO セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下 SCJ)は、東日本大震災復興支援事業の柱の一つとして、2011年5月より子ども参加によるまちづくり事業“Speaking Out From Tohoku(SOFT)～子どもの参加でより良いまちに！～”を実施しております。本事業を通じて、地域の復興やまちづくりに対し、地域の一員である子どもたち自身が声をあげ、社会に参加することで、より良いまちをつくることを目指しています。

2011年、岩手・宮城県5地域の小学4年生～高校生約1万1千人を対象に「Hear Our Voice 1～子ども参加に関する意識調査～」(※1)、2012年には岩手・宮城県3地域の同約1万5千人を対象に、「Hear Our Voice 7～子ども参加に関する意識調査 2012～」(※1)を実施しました。その結果、被災地域の子どもたちの約9割(2011年度調査)、約7割(2012年度調査)が自分たちの住む地域の復興に向けたまちづくりに、自ら進んで参加したいと考えていることが明らかになりました。

SCJは、本調査を継続的に実施していくことで、地域の子どものやおとなの子ども参加に関する意識を把握し、子ども参加によるまちづくりの促進につなげようと考えています。本調査結果を通じて、約1万4千人の子どもたちが、地域の復興に参加することについてどのように考えているのか、ぜひ子どもたちの声に耳を傾けてください。

本調査に参加してくれた子どもたち、実施にあたりご協力いただいた行政、学校、地域関係者、関係団体のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

※1 「Hear Our Voice1～子ども参加に関する意識調査～」 http://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=434

「Hear Our Voice7～子ども参加に関する意識調査 2012～」 http://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=969

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、東日本大震災後の地域の復興に子どもが参加することについて、子ども自身がどのように認識しているかを把握するために実施した。その一方で、子どもが復興に参加するためには、おとなのサポートが必要であるため、復興における子ども参加へのおとなの意識を知るために、おとなに対しても調査を実施した。

2. 調査の状況

・調査地域：岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市（「子どもまちづくりクラブ」実施地域）

・調査対象：

子ども…対象地域内にある学校に通う小学4年生～高校生、合計16,810人
(小学校54校、中学校26校、高校14校、特別支援学校4校：計98校)
※実施した学校一覧は詳細レポートに掲載予定。

おとな…対象地域内にあるすべての世帯、合計72,233世帯

・調査方法：

子ども…小中学校は教育委員会を経由し文書箱にて送付、高校は直接送付し、教師のガイダンスによる自記式で回答。特別支援学校については、必要に応じて教師のガイダンスを丁寧に行い、自記式で回答。

おとな…自治体の協力のもと対象地域全世帯に配布し、各世帯の中で19歳以上の1名が自記式で回答。

・調査期間：2014年9月1日～10月10日

・有効回答数：子ども13,957件、おとな3,687件

Ⅱ. 結果概要

1. 子どもの結果について

子どもの調査結果の概要については下記の通り。詳細はⅢ以下を参照。

- ① 約7割の子どもたちが「自分のまちの復興に関わりたい」と回答し、子どもたちは2011年度、2012年度の調査と同様に地域の復興に関わりたいと考えている。2012年度の調査結果と比べ、「復興に関わりたい」と回答した子どもの割合は若干(2.6%)減ったが、関わりたくない理由として「勉強もしくは部活で忙しい」が多く、震災前の子どもの学校生活が徐々に回復しつつあることが原因であると考えられる。
- ② また「復興に関わりたい」という意識は高いが、「実際に関わった」という子どもの割合が少ない結果となった。
- ③ 今回の調査では「復興のためにどんなことをしたいか」の選択肢として「まちづくりの活動に参加」「震災を語り継ぐ」という選択肢を増設したが、これらの項目を選択した子どもが多い。
- ④ 「関わりたくない」「関わっていない」理由の中で「何をしたらいいかわからない」、「関わる機会がない」が突出しており、2012年度の調査結果と同様の傾向が見て取れる。これは未だ、子どもが復興に関わることについての情報や機会の提供が少ないことが原因だと考えられる。
- ⑤ SCJの「子ども参加によるまちづくり事業の活動に参加した」子どもの方が、「復興に関わりたい」、「実際に関わった」双方について割合が高い。
- ⑥ 「復興についておとなに伝えたいこと」については、2012年の調査に比べて「特になし」「ありません」と答える子どもが増えた。
- ⑦ 「復興についておとなに伝えたいこと」について「特になし」「ありません」以外の記述をする子ども、すなわち自分のまちの復興についておとなに具体的に伝えたいことがある子どもの方が、「子どもの意見が復興に良い影響を与えることができる」と思う割合が高い。

2. おとなの結果について(※2)

おとなには次の5つの質問に回答してもらった。

2. あなたは、地域の子どもが復興に向けたまちづくりに参加することをどう思いますか？
 3. あなたは、地域の子どもたちが地域の復興に関わることに協力したいと思いますか？
 4. あなたは、地域の子どもたちが地域の復興に関わることに協力していますか？
 5. あなたは、地域の復興について子どもの意見を聞いていると思いますか？
 6. あなたは、ふだんから子どもの意見を聞いていると思いますか？
- ① 2および3について、大多数が肯定的な回答をしており、子どもが復興に向けたまちづくりに参加することについて、概ね肯定的な印象を持っていることが分かった。
 - ② しかし4については約7割の人が「いいえ」と答えている。その理由として、「周りに子どもがいない」、「年齢や健康上難しい」といった理由の次に、「機会がない、協力の場がない」「情報がない」「協力の仕方がわからない」が多い。一方で「はい」と答えた人は、「復興やまちづくりについて子どもと話し合う」「子どもに復興やまちづくりの情報を提供する」「復興やまちづくりに関わる子どもの活動に参加する」等の形で協力している。
 - ③ 6については肯定的な回答が過半数であった。しかし5については、肯定的な回答がかなり少なくなっており、子どもが復興に向けたまちづくりに参加することは良いと考えおり、ふだんから子どもの意見は聞いていると考えているものの、実際には復興に関する子どもの意見は十分には聞いていないと言える結果になった。

※2 調査の制約について

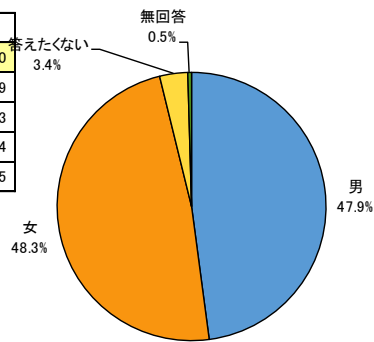
おとなの調査を行うにあたって、標本調査に必要となる上記調査地域の成人人口の名簿などの個人情報が一 NGO では入手不可能であったため、自治体の協力を得て、全世帯を対象とした郵送調査を実施した。しかしながら、回収率が低く、調査結果にポジティブ・バイアス(肯定的先入観)がかかっている可能性が否めないため、おとなの調査結果はあくまでも参考事例として紹介するにとどめる。

Ⅲ. 質問項目および集計結果

1. あなた自身について教えてください。

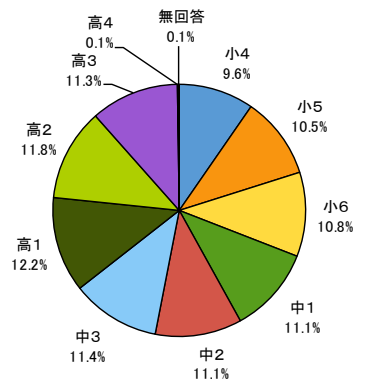
(1) 性別

	調査数	%
全体	13957	100
男	6686	47.9
女	6737	48.3
答えたくない	471	3.4
無回答	63	0.5



(2) 学年

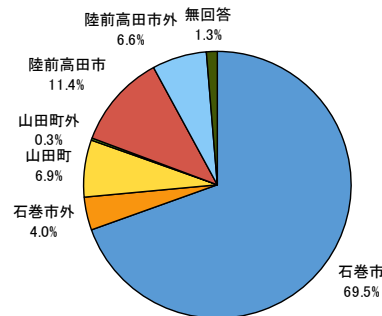
	調査数	%
全体	13957	100
小4	1342	9.6
小5	1465	10.5
小6	1508	10.8
中1	1543	11.1
中2	1547	11.1
中3	1586	11.4
高1	1705	12.2
高2	1652	11.8
高3	1576	11.3
高4	14	0.1
無回答	19	0.1



※3:「高4」については、下記の注記を参照

(3) 地域

	調査数	%
全体	13957	100
石巻市	9702	69.5
石巻市外	559	4.0
山田町	965	6.9
山田町外	37	0.3
陸前高田市	1590	11.4
陸前高田市外	921	6.6
無回答	183	1.3



※4:「石巻市外」「山田町外」「陸前高田市外」については下記の注記を参照

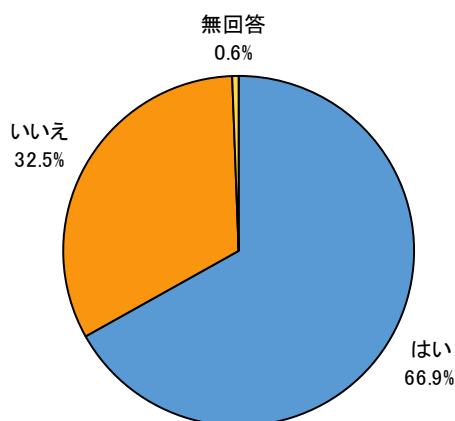
※3 定時制課程の高校が2校含まれているため、「高4」という選択項目がある。

※4 今回の調査は主に石巻市・山田町・陸前高田市の学校で実施したが、各市町に在住しながら、各市町外の学校に通学している児童・生徒がいるため、隣接市の学校でも実施した。もう一方で、隣接市に在住しながら各市町内の学校に通学している子どもや隣接市内の学校での実施の際に隣接市に在住している子どもも本調査に参加したため、このような子どもの属性は「石巻市外」「山田町市外」「陸前高田市外」としている。

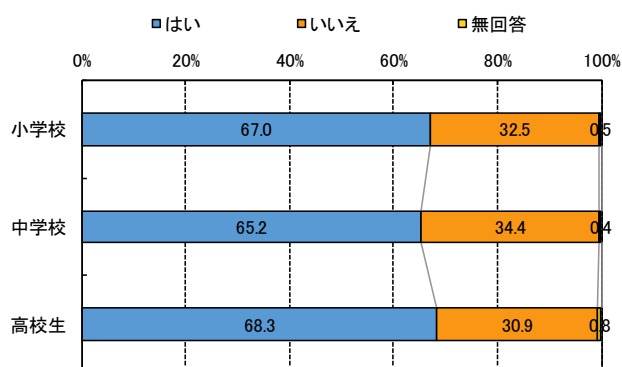
2-（1）. あなたは、自分のまちの復興にかかわりたいと思いますか？

9,333 人(66.9%)の子どもが「はい」と回答した。小中高別では、高校生が小中学生に比べ、やや「はい」の割合が高く、男女別では女子の方が男子に比べ、13%程度「はい」の割合が高い。

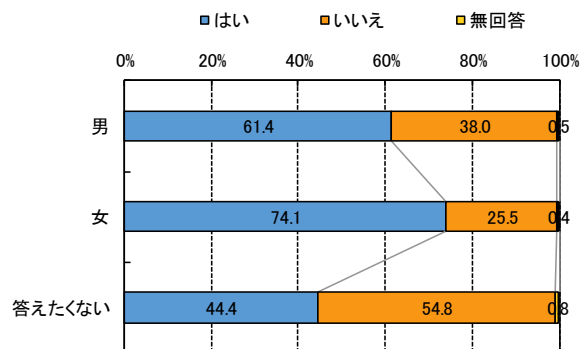
	調査数	%
全体	13957	100
はい	9333	66.9
いいえ	4542	32.5
無回答	82	0.6



■小中高別



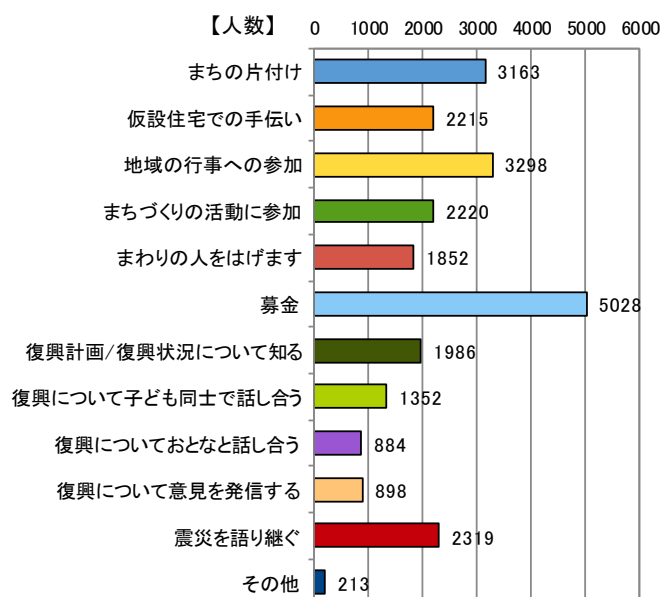
■男女別



2-（2）. 「はい」の人は、そのためにどんなことをしたいですか？（複数回答）

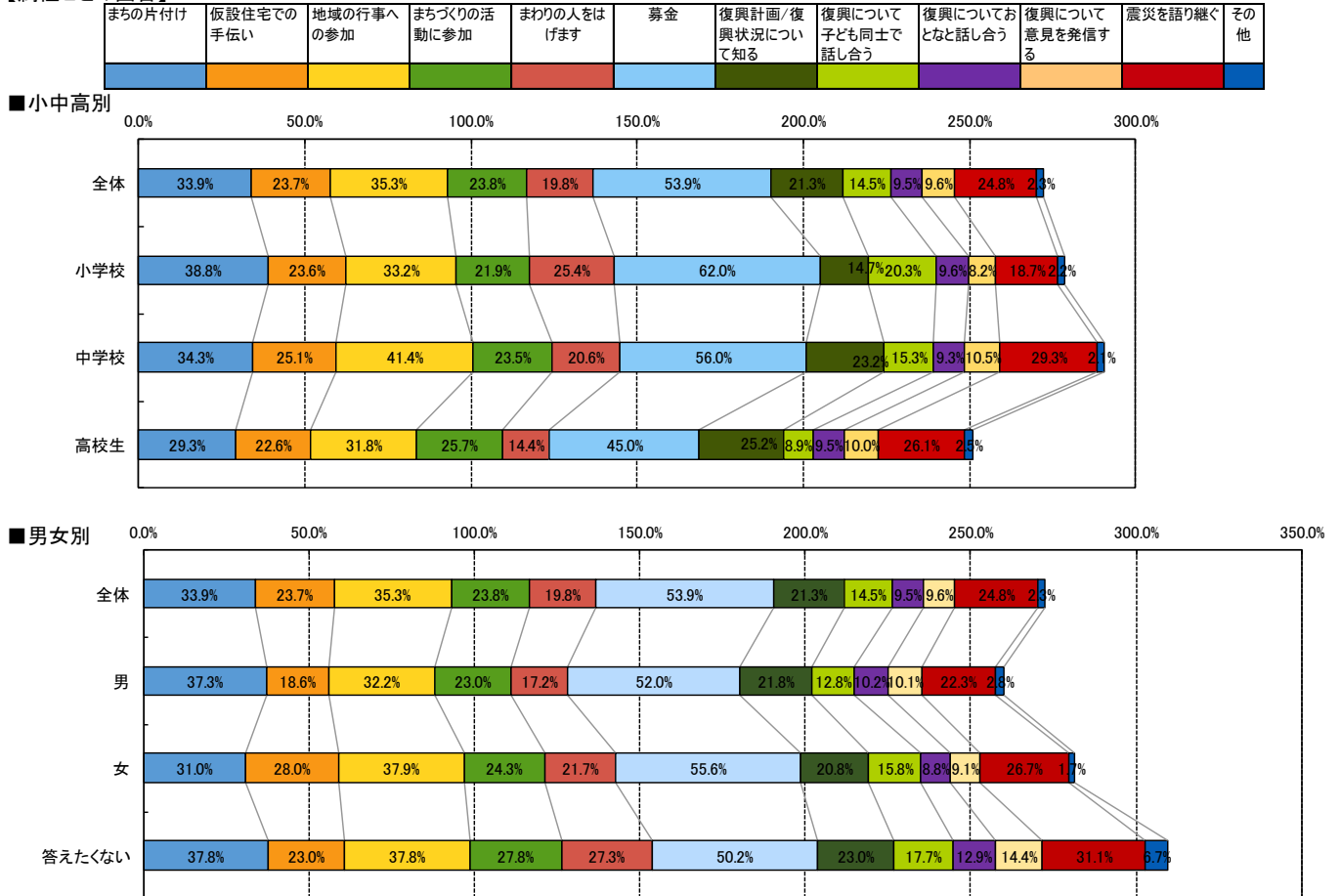
「募金」、「地域の行事への参加」「まちの片付け」が多かった。今回の調査では「まちづくりの活動に参加」「震災を語り継ぐ」という選択肢を増設したが、いずれの項目も子どもの 4 人に 1 人が選択している。復興に関わる選択肢においては、小学生は「復興について子ども同士で話し合う」ことを、中高生は「復興計画を知る」ことを望んでいる。

	調査数	%
全体	9333	100
まちの片付け	3163	33.9
仮設住宅での手伝い	2215	23.7
地域の行事への参加	3298	35.3
まちづくりの活動に参加	2220	23.8
まわりの人を上げます	1852	19.8
募金	5028	53.9
復興計画/復興状況について知る	1986	21.3
復興について子ども同士で話し合う	1352	14.5
復興についておとなと話し合う	884	9.5
復興について意見を発信する	898	9.6
震災を語り継ぐ	2319	24.8
その他	213	2.3
無回答	79	0.8



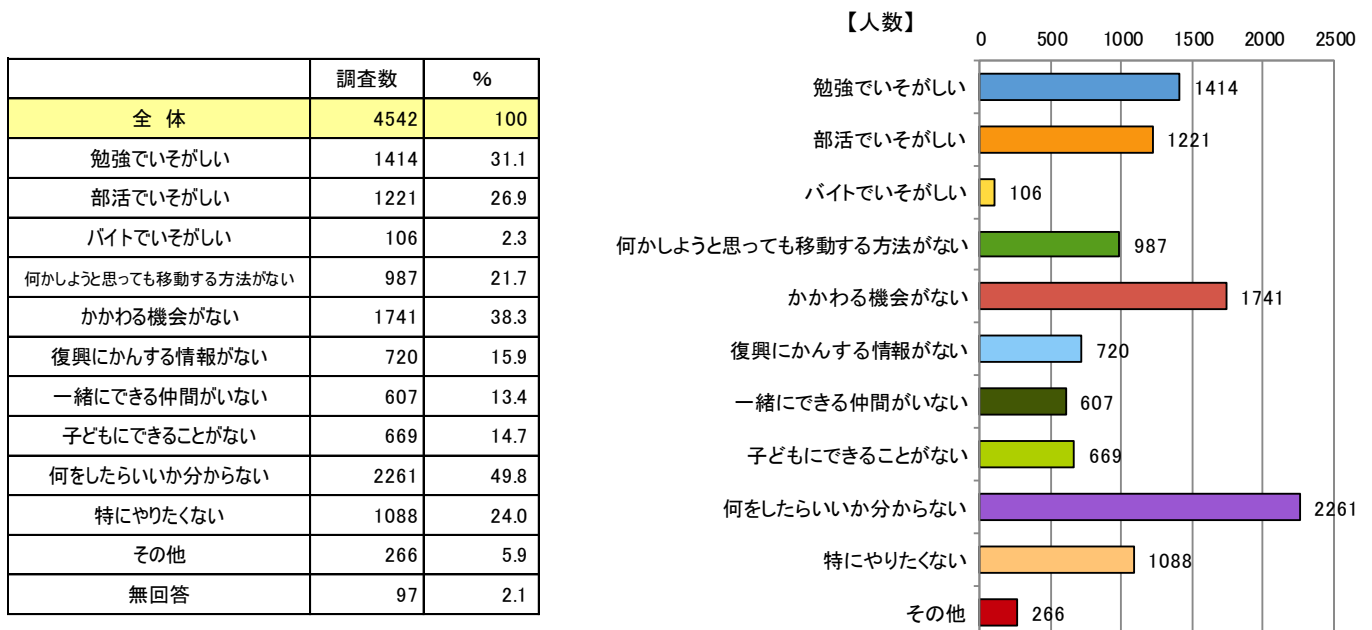
* 複数回答のため、% 合計は 100%を超えている。

【属性ごとの回答】



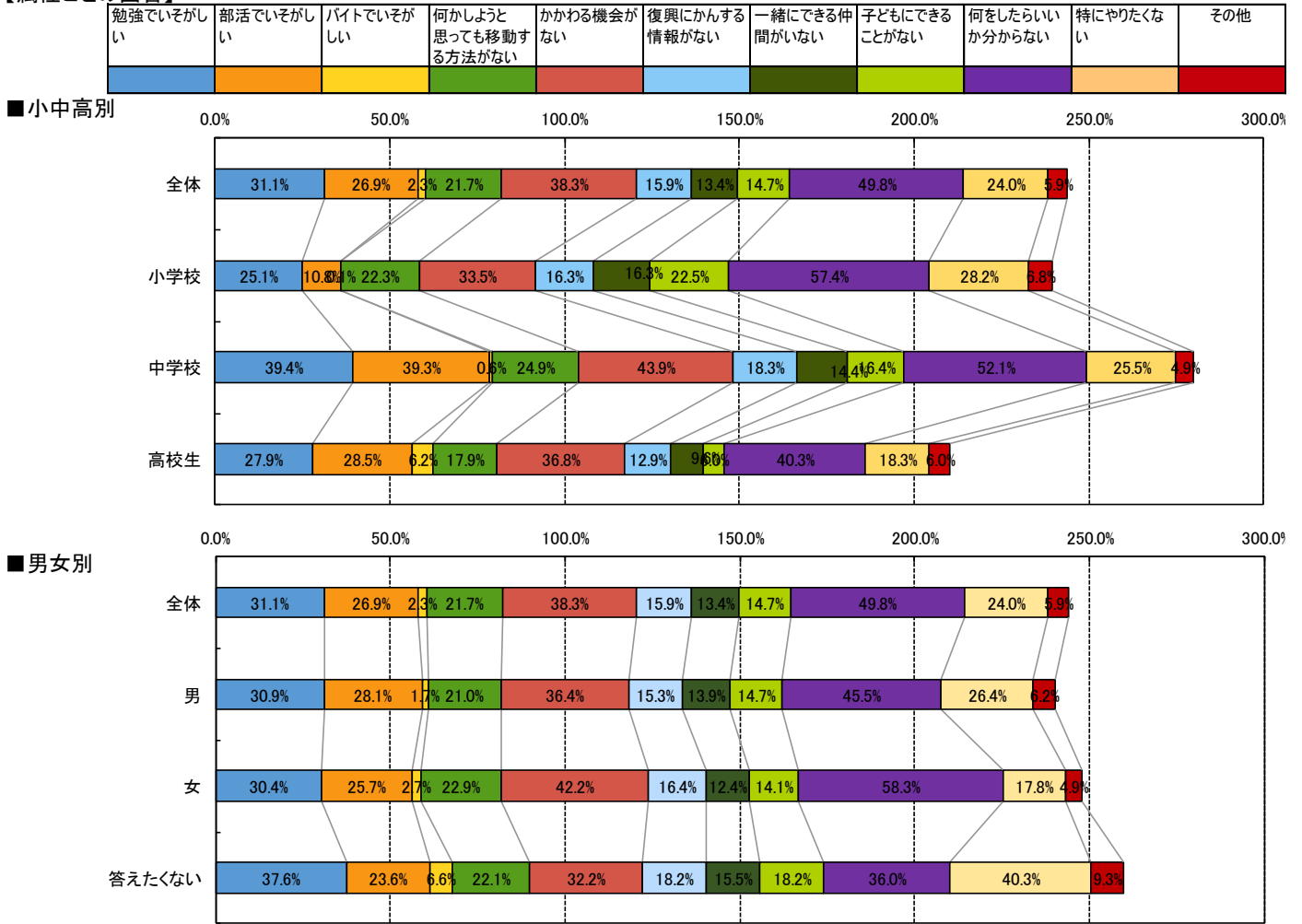
2-(3). 「いいえ」の人は、その理由を教えてください。(複数回答)

「何をしたらいいかわからない」、「かかわる機会がない」が突出しており、2012年度の調査結果と同様の傾向が見取れる。これは未だ子どもが復興に関わることについての情報や機会の提供が少ないことが原因だと考えられ、することが分からないために子どもたちの参加意欲がそがれている可能性がある。また、次いで「勉強でいそがしい」、「部活でいそがしい」が多かったが、「いそがしい」については、特に中高生で選択した割合が高い。これも2012年度と同様の傾向であり、震災前の子どもたちの学校生活が徐々に回復しつつあることが原因であると考えられる。



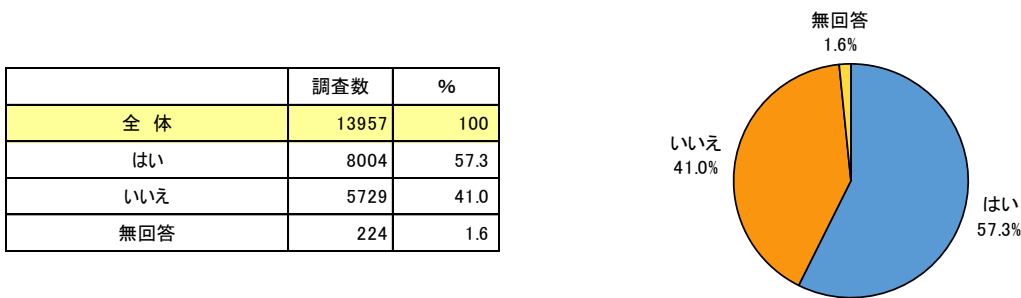
* 複数回答のため、% 合計は100%を超えている。

【属性ごとの回答】

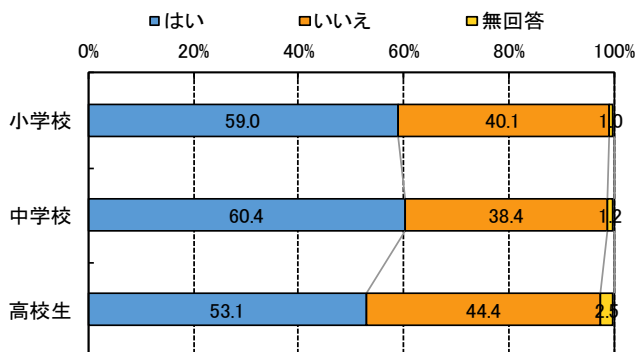


3-（1） あなたは、自分のまちの復興のために何かしたことがありますか？

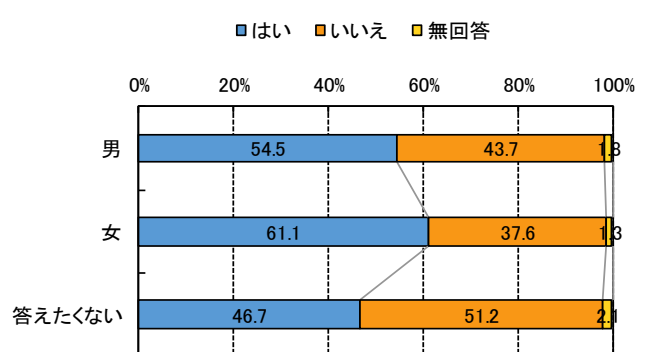
8,004 人(57.3%)の子どもが「はい」と回答した。実際に自分のまちの復興のために「何かした」と答えた子どもの割合は、2-（1）で「何かしたい」と答えた子どもの割合に比べ 9.6%少なくなった。



■ 小中高別



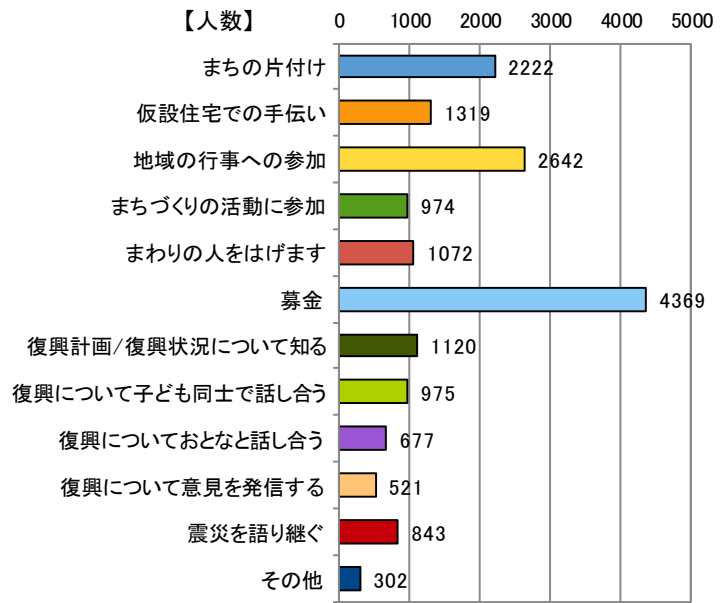
■ 男女別



3-(2). 「はい」の人は、そのためにどんなことをしましたか？(複数回答)

どの年代でも「募金」が多かった。一方で、2-(2)の回答で比較的多かった「復興状況/計画について知る」の割合が7.3%低くなっている。

	調査数	%
全体	8004	100
まちの片付け	2222	27.8
仮設住宅での手伝い	1319	16.5
地域の行事への参加	2642	33.0
まちづくりの活動に参加	974	12.2
まわりの人を上げます	1072	13.4
募金	4369	54.6
復興計画/復興状況について知る	1120	14.0
復興について子ども同士で話し合う	975	12.2
復興についておとなと話し合う	677	8.5
復興について意見を発信する	521	6.5
震災を語り継ぐ	843	10.5
その他	302	3.8
無回答	38	0.5

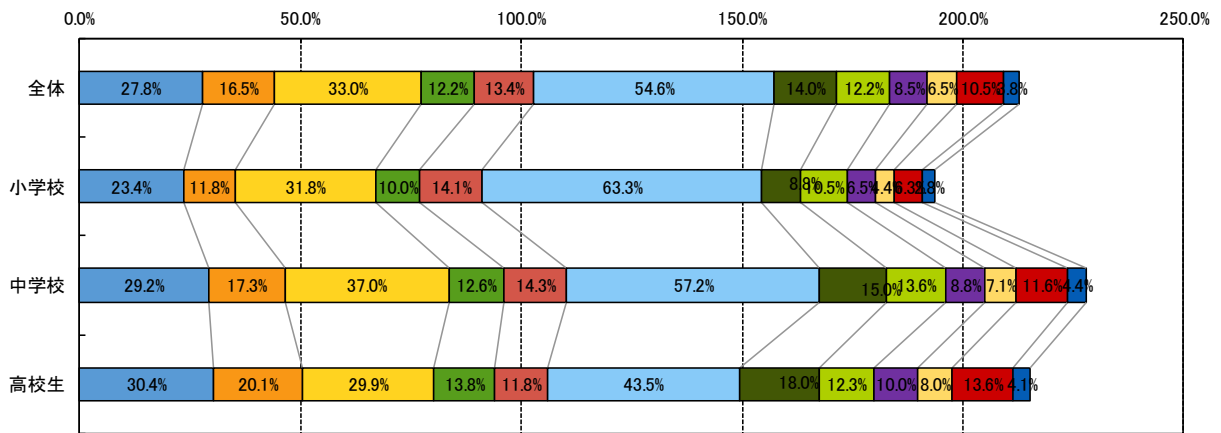


* 複数回答のため、% 合計は 100%を超えている。

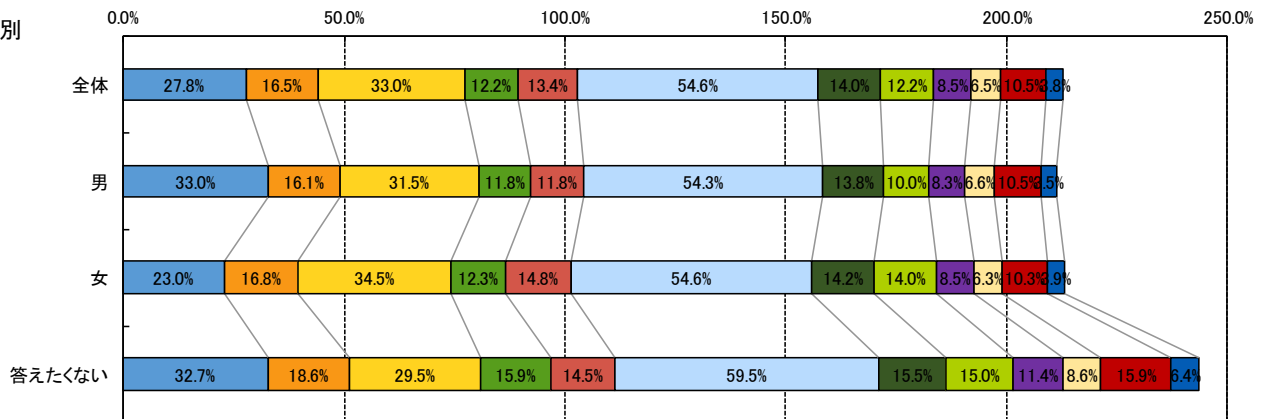
【属性ごとの回答】



■小中高別



■男女別

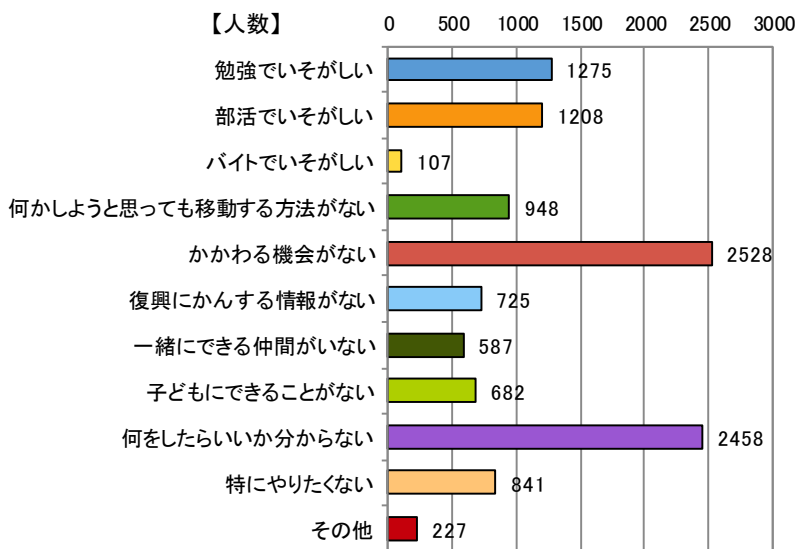


* 3-(2)で「はい」と回答した場合、限定条件に基づく質問として本来であれば「そのためにどんなことをしましたか？」ときかれるべきであったところ、「そのためにどんなことをしたいですか？」と誤記があった。しかし、質問の並び上、3-(1)に関連してきかれていることが推測できるため、従来の質問内容に対するの回答が含まれると判断した。

3-(3). 「いいえ」の人は、その理由を教えてください。(複数回答)

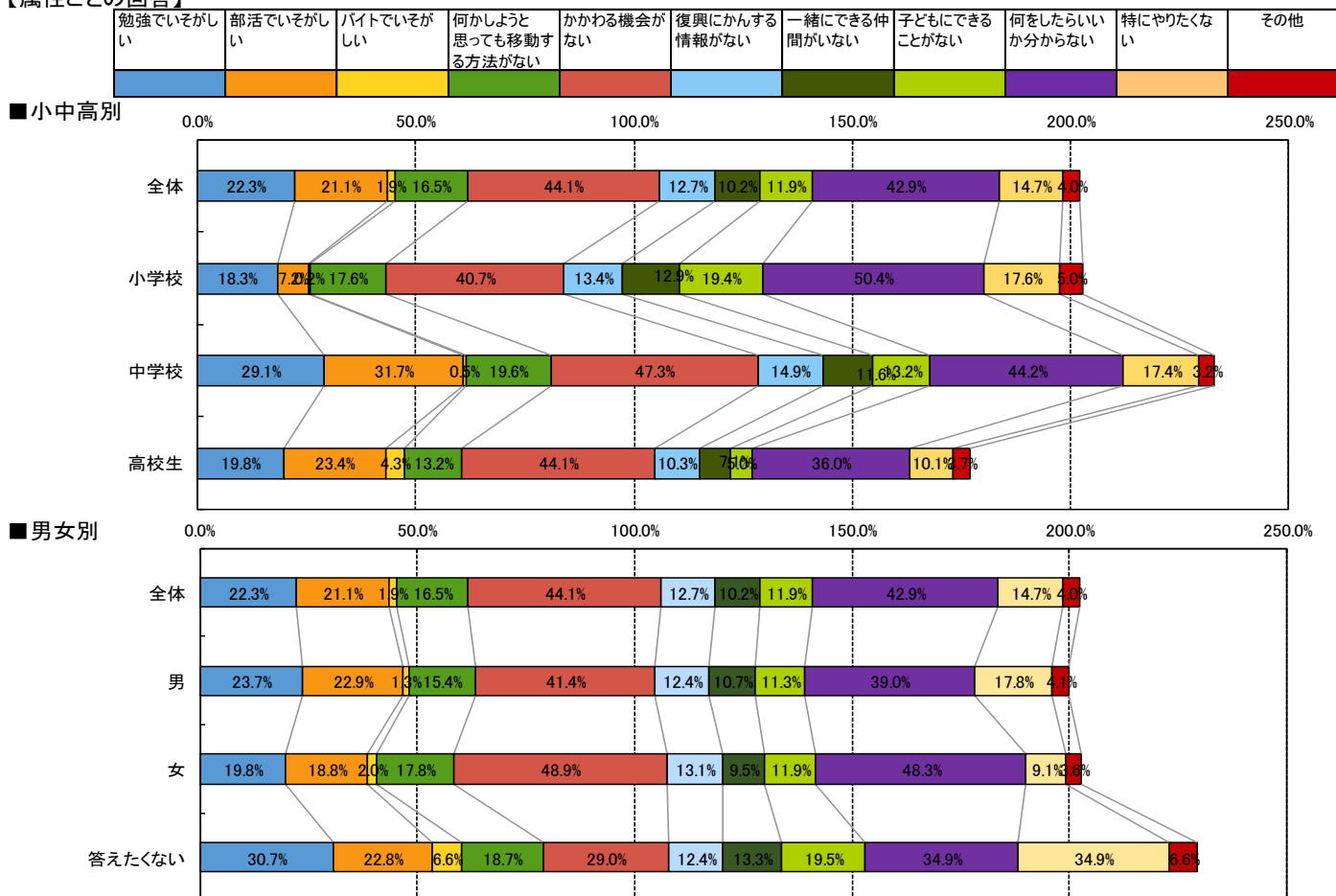
「かかわる機会がない」、「何をしたらいいかわからない」がほぼ同じで突出している。子どもが復興についての情報や機会がないために関わることができないのは、2-(3)と同様に子ども参加を阻む主要因と考えられる。次いで「勉強でいそがしい」、「部活でいそがしい」が多く、特に中高生は小学生に比べ「忙しい」割合が高い。「何かしようと思っても移動する方法がない」については、震災の影響で交通手段が不十分であるため、子どもたちが思うように参加できていない可能性があるといえる。

	調査数	%
全体	5729	100
勉強でいそがしい	1275	22.3
部活でいそがしい	1208	21.1
バイトでいそがしい	107	1.9
何かしようと思っても移動する方法がない	948	16.5
かかわる機会がない	2528	44.1
復興にかんする情報がない	725	12.7
一緒にできる仲間がない	587	10.2
子どもにできることがない	682	11.9
何をしたらいいかわからない	2458	42.9
特にやりたくない	841	14.7
その他	227	4.0
無回答	243	4.2



* 複数回答のため、% 合計は 100%を超えている。

【属性ごとの回答】



4. 自分のまちの復興について、あなたがおとなに伝えたいことを自由に書いてください。

自由回答には8,058人の子どもの声が寄せられた。内容については特に、施設やインフラ整備、自分のまちの現在・未来の姿、被災地への支援に関する感謝、復興における子ども参加といった内容が多く見られた。

以下、寄せられた回答の中からいくつか抜粋し、記載する。(誤字・脱字もそのまま転記。)

- 広いグラウンドを使って、おもいきり走ったり、遊びたいし、野球がしたい。(陸前高田市・小6・男)
- ぼくの家がちかくに公園がないのでどうろであそんでいます。だから公園を作ってほしいです。(石巻市・小6・男)
- 街を高台の方につくるのは良いと思うけど、津波で助かった木を切ってしまうのは、あまりしてほしくないです。高台につくるなら、しぜんを利用してつくってほしいです。(陸前高田市・中1・男)
- 山田町には、いままで自分がしらなかったたてものがたくさんたつようになりました。工事がすすんで、私は公園などのひろばが少なくなった気がします。緑やあそぶところを確保しながら、復興してほしいです。(山田町・中2・女)
- 海がそばなので、震災のこともあると思いますが、早く泳いだりしたいです。あと、陸前高田も復興が進めばいいなと思いますが、今の広田も私は好きです。(陸前高田市・中1・女)
- 震災を語りつぐのは、悪いこととは思わないけど、港の方に被災した建物など、わざと残しておくことは、震災で家族や親戚の人を亡くした人たちにとっては、良い気分はしないと思います。※ぼくも実際に家族を亡くしているので…。(石巻市・中1・男)
- 新しい建物を建てるのも観光客とかが増えて、良いことだと思います。しかし、震災前にあった思い出の場所がある人もいて、その建物が店が復活するのも待っている人がいると思います。私もその1人です。昔のも建てられるようにして頂きたいです。(陸前高田市・高3・女)
- 大変かもしれないけど、町のふっこうだけでなく、人の心も支えられるようにできるようにしてほしいです。大人が怒ったり、感情の変化も子供にも分かるし、ある意味困ります。(石巻市・中1・女)
- 大人だけが大変じゃないこと。子供がいくら元気でいても、どこか悲しいことや辛いことがある。(石巻市・高1・女)
- 「がんばっぺ」っていうけど、じゅうぶんみんながんばってるよ。いうなら「がんばってるね」とかがいい。(石巻市・小4・女)
- 自分たちも学校などでがんばっているからおとなの人にもがんばってほしい。(山田町・小6・男)
- 「自分はいいや」ではなく、「自分がやらなければいけない」。積極的に参加してほしいです。私たち子供だけでは、やはりやりたくてもできないことがたくさんあります。ですので、大人の力を必要なのです。(石巻市・中1・女)
- 本当に、真実のことを知りたいです。子供だからと真実を隠されては困ります。高田の復興は進んでいるのですか。子供たちが遊べるしせつや公園のけんとうは？私のわがままですが、少し、高田の未来が心配です。被災地は、今後どのように使われていくのか…。子どもは未来の希望といわれることがありますが、正直、どうしていいか、わかりません。子どもたちこそ、伝えていかないと、ダメなのでは？子どもまちづくりクラブに入れば分かりますか？(陸前高田市・中2・女)
- 子供達はもっと色々知りたいです。今どんな状況で復興にはどれぐらいかかって、現状はこうで、原発の影響はこれぐらいあって、もうきつと住むことは不可能で。とか、そういうことをもっと知りたいです。(石巻市・中3・女)
- おとなは子どもが復興のためにできることはないというけど、子どもだって子ども同士で話し合ったり、復興がどれくらい進んでいるのかを知ったりもできます。次のせだいに語り継ぐことだってできます。子どものしてんでしか分からないこともあると思います。ぜひ、子どもも復興にかかわらせてください。(石巻市・小5・女)

- 子ども達にもできることは、たくさんあると思います。すべて、大人達が背負うのではなく子ども達にもやることはできるから、ボランティア活動などをもっと増やしてほしい。(山田町・中 2・男)
- いくら復興に関わりたいと思っても、子どもだというだけでいろいろ言われます。復興にたずさわりたいと思うのは子どもの方が人一倍強く思っているはずです。それをわかってください。おねがいします。(石巻市・中 3・男)
- 私たちが次の世代の子供たちに震災を語り継ぐ人だと思うので、経験したことを子供たちに伝えたいと思います。(山田町・高 1・女)
- 私は震災で多くの大切なモノを失いましたが、新しく出来た大切なモノもあります。それもこれも復興の為にいろいろな事を助けてもらったからです。ありがとうございます。(石巻市・高 1・女)
- いつまでも被災者のままではいけないと思う。全国の皆様のあたたかい支援にはとても感謝しているけど、それに甘えてばかりではいけないと思う。(石巻市・高 3・女)

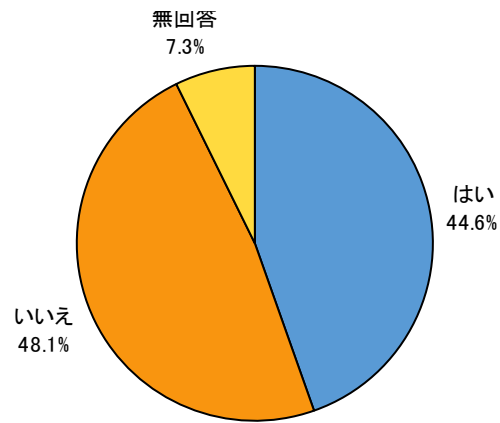
* この質問に対して寄せられた子どもたちのすべての声を、後日 SCJ のホームページにて公開予定。 → <http://www.savechildren.or.jp>

なお、本質問において、過去の調査結果と比べて「特になし」「ありません」と回答した子どもの割合が大幅に増えたことは特筆すべき点である。

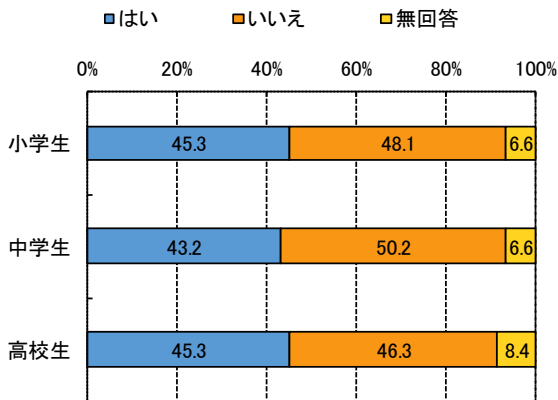
5. あなたは、あなたの意見や行動が自分のまちの復興に良い影響を与えることができますか？

6,225 人(44.6%)の子どもが「はい」と回答し、「いいえ」と答えた 6,717 人(48.1%)よりも若干少なかった。

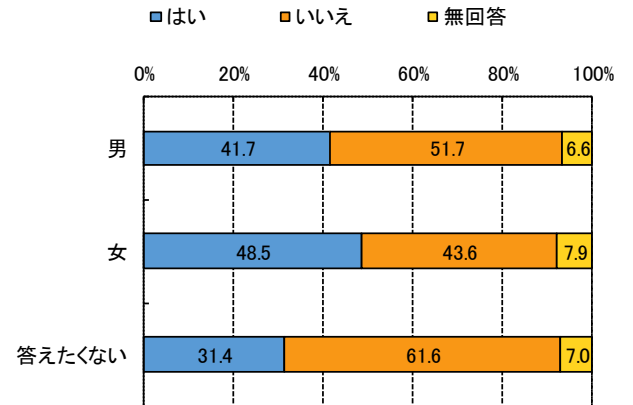
	調査数	%
全体	13957	100
はい	6225	44.6
いいえ	6717	48.1
無回答	1015	7.3



■小中高別

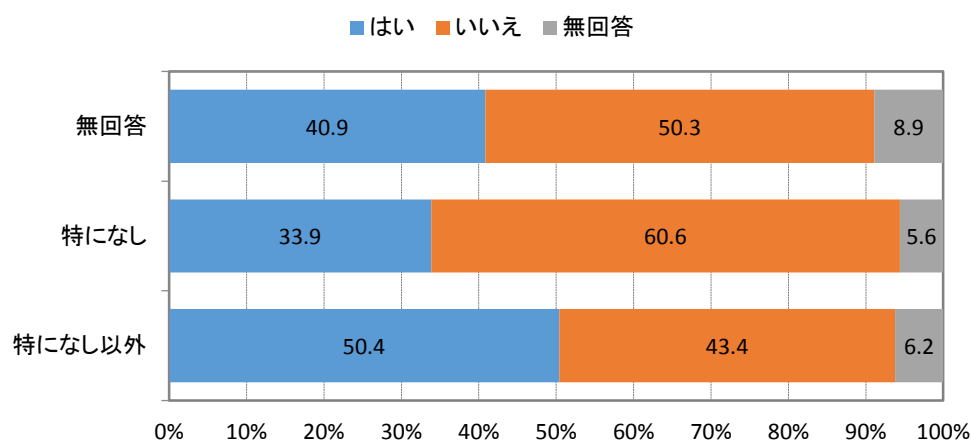


■男女別



なお、「自分のまちの復興について、おとなに伝えたいこと」の自由記述において、2012年度の調査結果に比べて「特になし」「ありません」と答える子どもが増えたことは前述のとおりだが、この傾向の背景を探るために、4の回答内容と、上記5の子ども参加の復興への影響（復興プロセスにおける子どもの自己効力感）の相関関係を調べた。その結果、「特になし」「ありません」以外の記述をする子ども、すなわち自分のまちの復興についておとなに具体的に伝えたいことがある子どもの方が、「子どもの意見が復興に良い影響を与えることができる」と思う割合が高かった。もう一方で、2012年度の調査結果よりもおとなに具体的に伝えたいことがない子どもが増えたのは、子どもがおとなに伝えても自分のまちの復興に影響がないのではという復興プロセスにおける自己効力感の低下が要因となっている可能性が懸念される。

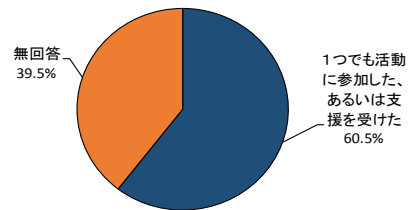
■4の回答内容別の5の自己効力感の回答



6. セーブ・ザ・チルドレンの活動の中であなたが実際に参加したり、支援を受けたものはありますか？

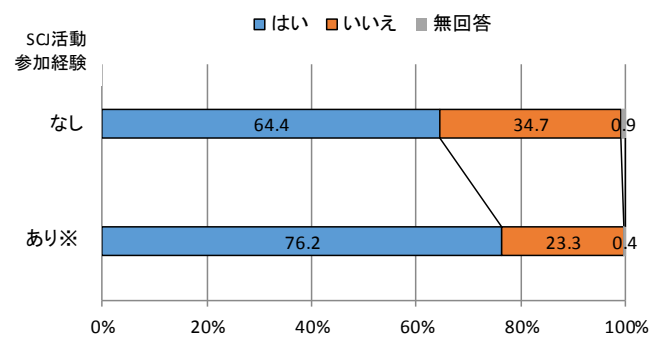
調査に回答した子どもたちのうち、8440人(60.5%)の子どもが、1つでも「セーブ・ザ・チルドレンの活動に実際に参加したり、支援を受けた」と回答した。もう一方で無回答だった子どもについては、質問に対して何かしら回答がなかった子どもに加え、セーブ・ザ・チルドレンの活動に実際参加していないと認識している子どもも含まれている。

	調査数	%
全体	13,957	100
1つでも活動に参加した、あるいは支援を受けた	8,440	60.5
無回答	5,517	39.5

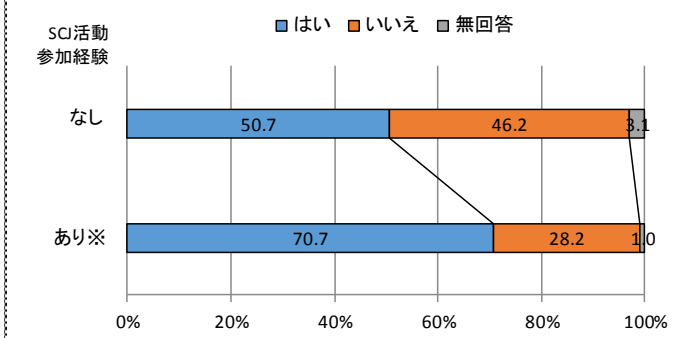


さらにセーブ・ザ・チルドレンの活動参加のうち、特に「子どもまちづくりクラブ(※5)」「石巻市子どもセンター」「ミニ『あかりの木』」などの子ども参加によるまちづくり事業への活動参加と、復興への参加についての関係性を調べた。「子ども参加によるまちづくり事業に参加した」と回答した子どもは、2-(1)で「復興にかかわりたい」および3-(1)で「復興のために何かしたことがある」と回答した割合が、活動参加について無回答の子どもよりも、それぞれ12.8%、20.1%ほど高かった。

■2-(1) あなたは、自分のまちの復興にかかわりたいと思いますか？



■3-(1) あなたは、自分のまちの復興のために何かしたことがありますか？



※SCJ活動のうち、「子ども参加によるまちづくり事業」参加者のみ

* 上記グラフの無回答の回答者の中には、無回答者に加えセーブ・ザ・チルドレンの活動に参加していないと認識している子どもも入る。また上記のSCJ活動参加経験ありと回答した子どもは「子ども参加によるまちづくり事業に参加した」とあると回答した子どものみを比較対象としている。

※5 「子どもまちづくりクラブ」は地域の一員である子どもたち自身が復興に向けたまちづくりに取り組む活動。2011年度の調査で明らかになった子どもたちの声を受け、2011年6月下旬より開始した。岩手県山田町、岩手県陸前高田市、宮城県石巻市の3つの地域で、小学校5年生～高校生のメンバーが、定期的集まり、子ども同士だけでなく地域の方や行政、専門家とも話し合いながら、地域の復興に向け、さまざまな活動をしている。

調査者：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

【お問い合わせ先】

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 仙台事務所
 担当：津田／東日本大震災復興支援事業部副部長兼プログラムマネージャー
 〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 1-3-7 横山ビル 2F
 TEL: 022-263-4561 FAX: 022-263-4562、E-mail: soft@savechildren.or.jp